

1999年度

# 大川遺跡発掘調査概報

大川橋線街路事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査概報

2000. 3

余市町教育委員会

## 例 言

1. 本書は平成11年度に実施された大川橋線街路事業用地内における大川遺跡の発掘調査概要報告である。

2. 本書は安西雅希及び岡崎次郎が執筆編集した。

3. 発掘調査及び整理体制

調査期間 平成11年5月10日～平成11年10月31日

整理期間 平成11年11月1日～平成12年3月31日

事業主体 北海道土木現業所

発掘主体 余市町教育委員会

(1) 大川遺跡迂回路地点

所在地 余市町大川町1丁目11-1他

調査面積 340m<sup>2</sup>

(2) 大川遺跡服部地点

所在地 余市町大川町1丁目85-1他

調査面積 185m<sup>2</sup>

(3) 大川遺跡道道地点

所在地 道道豊丘余市停車場線下他

調査面積 595m<sup>2</sup>

調査担当者 乾 芳宏

調査補助員 安西雅希・岡崎次郎・小川康和

発掘作業員 阿部正徳、荒岡民雄、柏谷忠勝、鎌田 忠、工藤忠幸、今 和明、滝川 博、福岡春夫、涌井大輔、渡部昭哉、阿部栄子、新谷美香、内田豊子、大森朋恵、北川千登世、久保照代、腰越洋子、合谷幸代、斉藤朱美、佐藤糸穂、佐藤洋子、白銀富子、千葉貴子、富岡昭子、仲鉢悦子、野田真紀子、橋本文子、畑澤理佳、久末洋子、古田千穂、松原智子、水田るり子、森久美子、渡部優子

整理作業員 阿部正徳、荒岡民雄、柏谷忠勝、鎌田 忠、工藤忠幸、今 和明、滝川 博、渡部昭哉、阿部栄子、新谷美香、内田豊子、大森朋恵、北川千登世、久保照代、斉藤朱美、白銀富子、富岡昭子、橋本文子、畑澤理佳、古田千穂、水田るり子

4. 発掘調査及び整理作業には次の方々の指導、助言、協力を得た。

北海道教育委員会 大沼忠春・種市幸生・田才雅彦、仁木町教育委員会 嶋井康夫

小樽市教育委員会 石井直章・青木 誠、石狩市教育委員会 石橋孝夫

伊達市教育委員会 青野友哉、上ノ国町教育委員会 松崎水穂

石川県埋蔵文化財センター 小嶋芳孝、瀬戸市埋蔵文化財センター 藤澤良祐

北海道開拓記念館 小林幸雄・手塚 薫、青森県立郷土館 福田友之

札幌医科大学 乗安整而、くらしき作陽大学 北野信彦

田部 淳、小柳リラコ、近藤芳二、青木延広、佐藤利雄（敬称略）

## 凡 例

1. 本文中で使用した遺構の略称は以下のとおりである。

H (House) 竪穴住居    P (Pit) 土坑・墓坑    SM (Shell Mound) 貝塚  
MO (Moat) 壕状遺構    FP (Fire Place) 焼土  
FC (Flake Chip) 剥片集中

2. 実測図の縮尺については以下の通である。

遺構関係 1/20

土器・陶磁器 1/3    その他の遺物（石器・骨角器・鉄製品など）1/2

上記以外の縮尺についてはスケールで示した。

3. 写真図版の縮尺は任意である。

# 大川遺跡発掘調査の概要

## 1. 遺跡の立地と層序

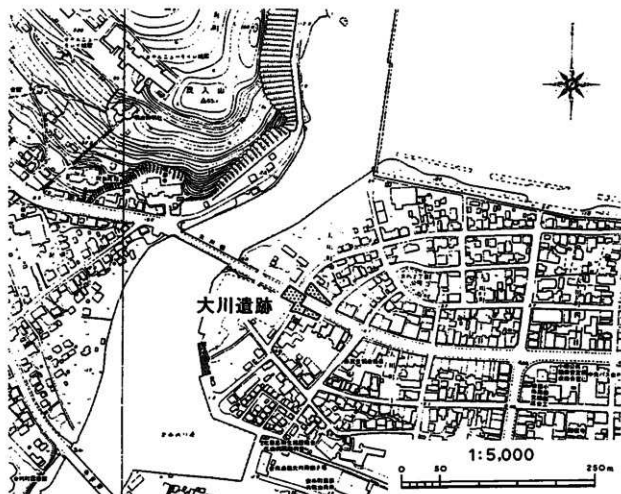
余市川河口から約40mの右岸に位置し標高約5mの砂丘上に立地する。調査区は小面積であるが住宅の移転、橋脚工事の日程の関係で同時発掘のため河口側の川沿いに迂回地点、道道豊丘余市停車場線をはさみ南側に位置する道道地点及び服部地点の三地点に区分した。発掘区は会社社屋、道道、商店、住宅などによる攪乱をうけている。

層序としては基本的には以下の4層である。

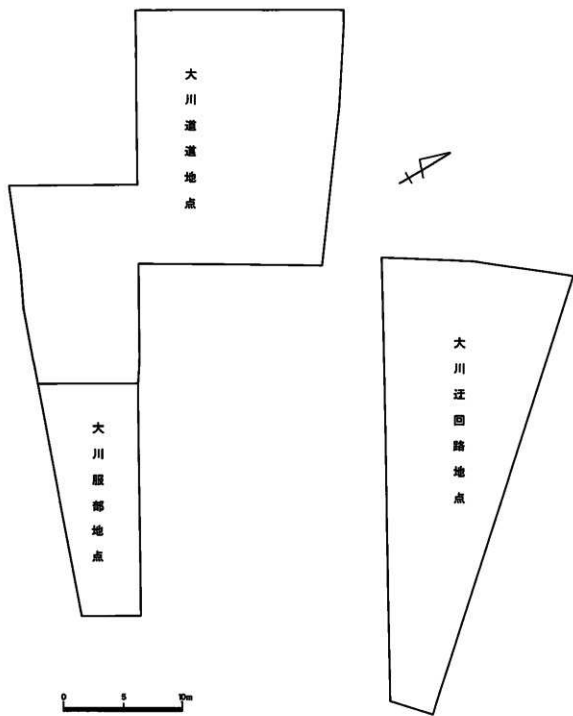
- I 表土 攪乱が著しい
- II 黒色土 攪乱が及んでいる 続縄文時代～近世・近代の遺物包含層
- III 茶褐色砂 縄文時代晩期～続縄文時代の遺物包含層
- IV 黄褐色砂 縄文時代晩期の遺物包含層

## 2. 発掘方法

発掘区に5m四方の大グリッドを設定し、それをさらに1m四方の小グリッドで区画し遺物を取り上げ、遺構またはそれに関連する遺物は地点を実測した。



第1図 遺跡の位置



第2図 各地点の位置

### 3. 迂回路地点の遺物を遺構

#### (1) 遺物の概要と時期

縄文時代晩期後葉～統縄文時代の石器、土器、中・近世、近代の刀、刀子、骨角器、漆器、陶磁器、古銭、煙管、中世和鏡等22,555点が出土した。

#### (2) 遺構の概要と時期

住居址2基(縄文時代晩期1基、時期不明1基)

墓墳50基(縄文時代晩期～統縄文時代前半12基、中世3基、近世10基、時期不明25基)

土塋8基(統縄文時代1基、時期不明7基)

塚状遺構1基(時期不明)

柱穴群1ヶ所(中世?)

石組炉1基(縄文時代晩期?)

焼土10基(縄文時代晩期後葉1基、不明9基)

貝塚3基(近代)

縄文時代晩期から統縄文時代前半の墓墳を主体とする地点で、特に恵山期の墓墳が比較的多く検出している。遺物が伴出せず時期不明の墓墳が多いが、検出された層位等から多くは縄文晩期から統縄文前半の墓墳と思われる。また中・近世の墓墳が比較的多く検出されており、伴出遺物から中世墓墳は室町時代、近世墓墳は17世紀後半から18世紀にかけてのものと思われる。

#### P-9 (第5・6図)

V-29・W-29グリッドに位置する。隅丸方形を呈する浅い掘り込みを覆う暗褐色砂の中に多量の炭化物の堆積がみられ、中央部分に数体分の焼けた人骨がかたまってみられた。副葬品としては刀、刀子、和鏡、骨鏃等がみられた。いずれも被熱しており、中世に属する合葬火葬墓と考えられる。

#### P-38 (第7・8図)

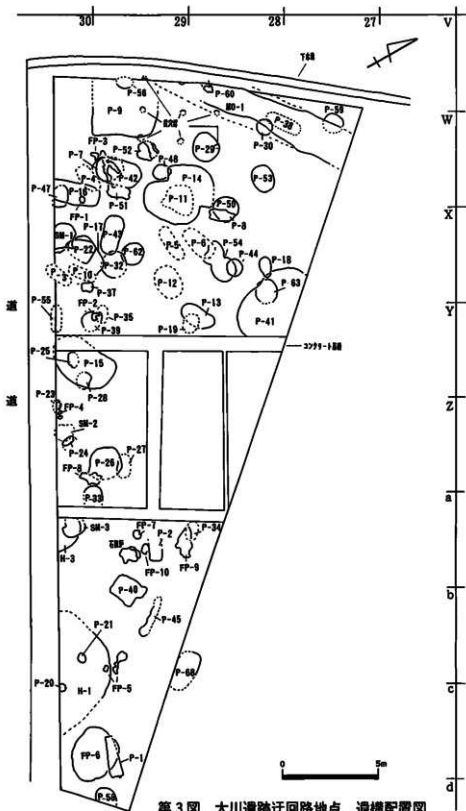
W-27・28グリッドに位置する。MO-1内より検出される。MO-1が埋没した後、その窪みを利用して構築されている。副葬品には刀子、火打ち金、煙管、鉈、漆器等がみられる。煙管はその形態から17世紀後半から18世紀前半のものと思われる。平面プランは不明確である。頭位は北東である。

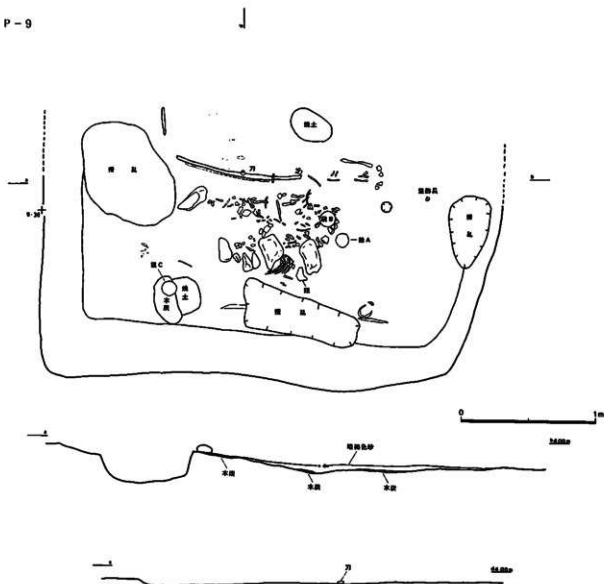
#### P-41 (第9・10・11・12図)

X-27・28、Y-27・28グリッドより検出。竪穴状に掘り込まれた遺構の墳底に角礫が配列されており、刀、刀子、骨角器、漆器等を副葬した後に焼成し、人為的に埋めた後に

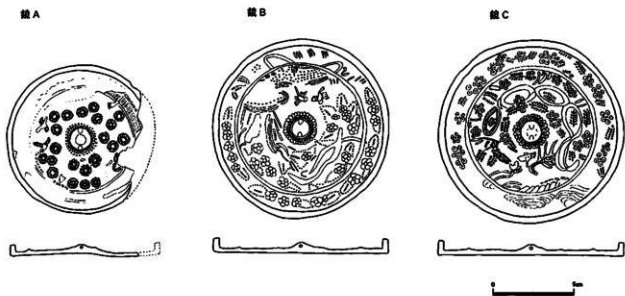
碟、青磁碗を配し再度焼成を行っている。

城底からは骨角器とともに焼骨が検出されているが、明確に人骨と思われるものは確認されなかったが遺構の形態や遺物の配置状況は伊達市オヤコツ遺跡検出の方形配石墓と呼称された遺構に類似していること等から墓塚と判断した。伴出した青磁碗から当墓塚は14・15世紀に属すると思われる。



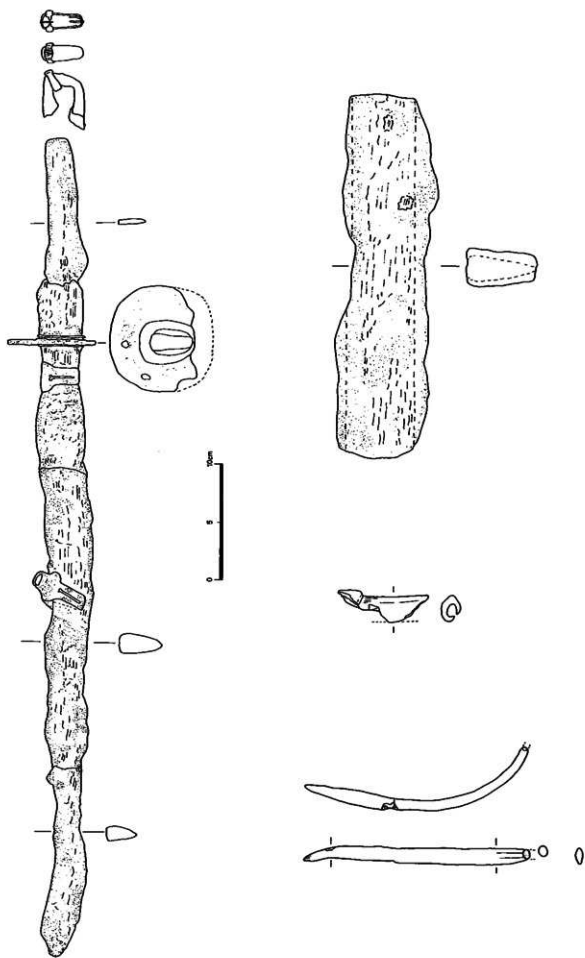


第4図 P-9 検出状況

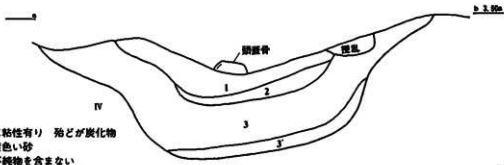


第5図 P-9 出土の鏡



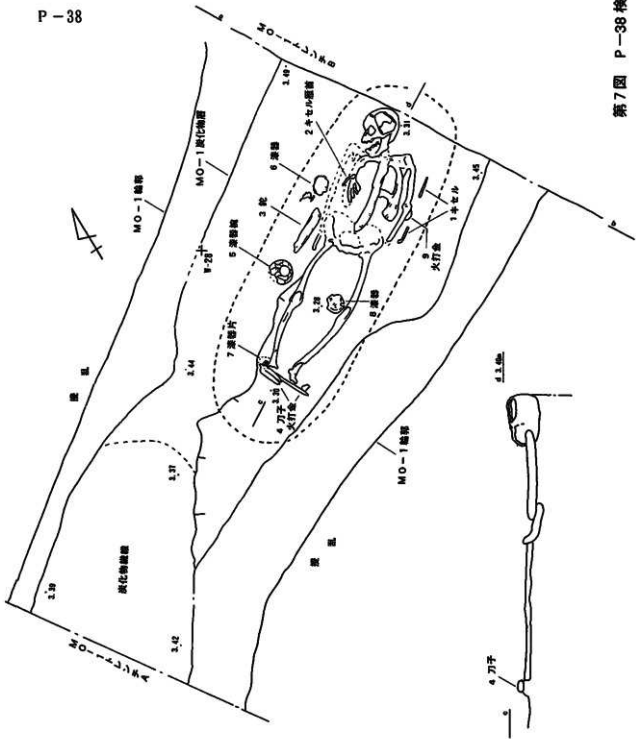


第6圖 P-9 出土遺物

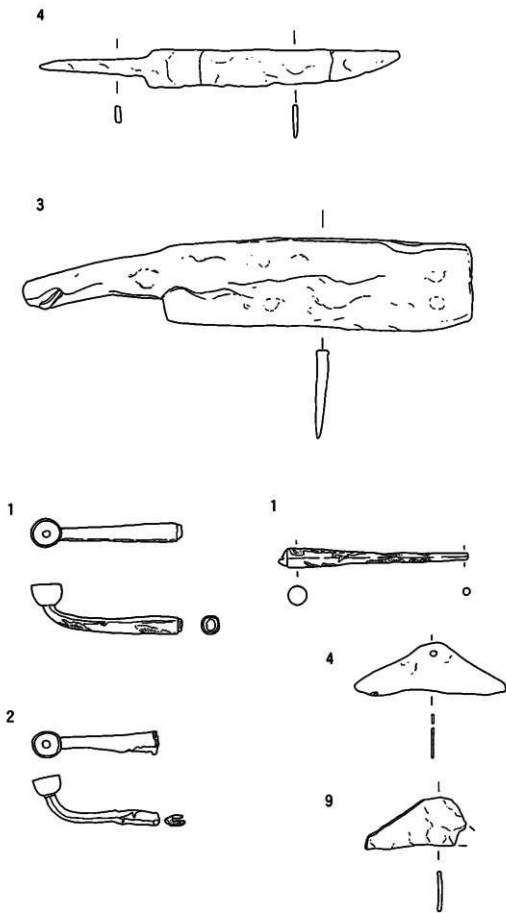


- 1 黒色土 わずかに粘性有り 殆どが炭化物
- 2 黄褐色砂 明るい黄色い砂 単色で不純物を含まない
- 3 暗褐色砂 粘性なし 炭化枝少し含む
- 3' 暗褐色砂 層3の黒ずんだ砂

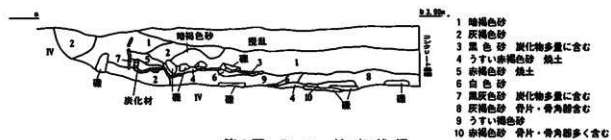
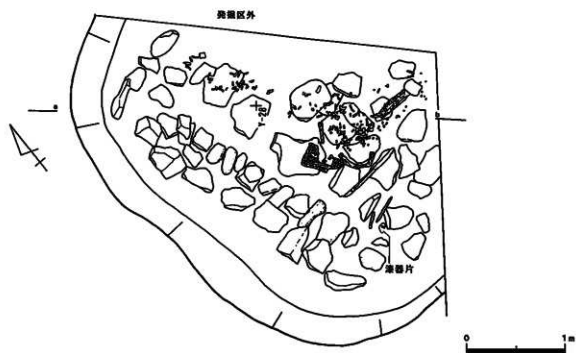
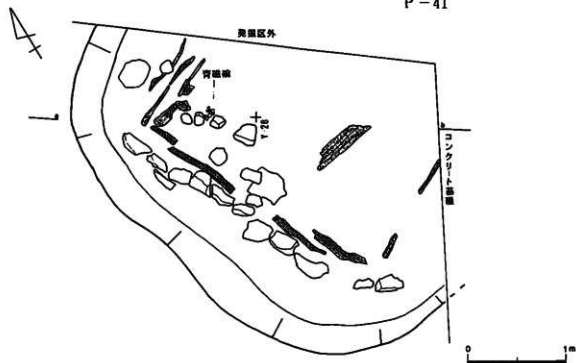
P-38



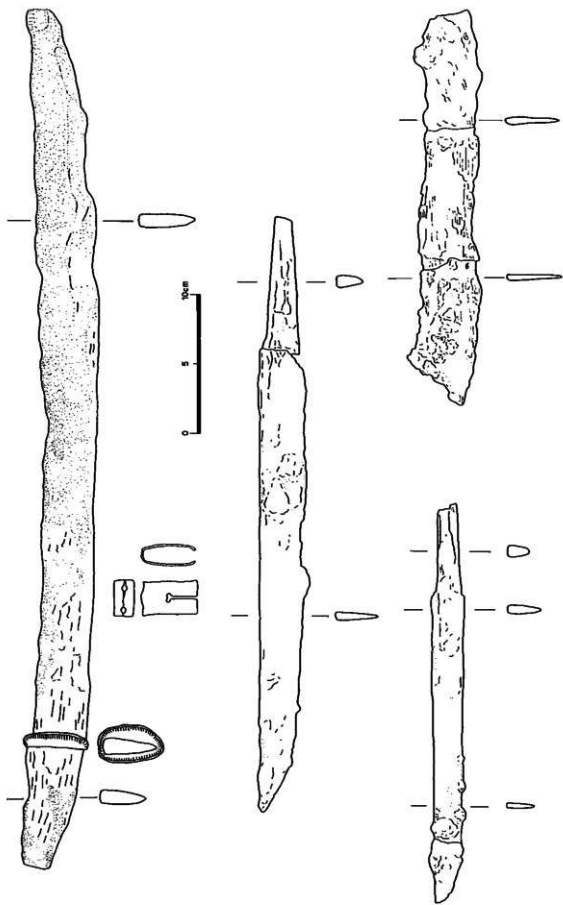
第7図 P-38 検出状況



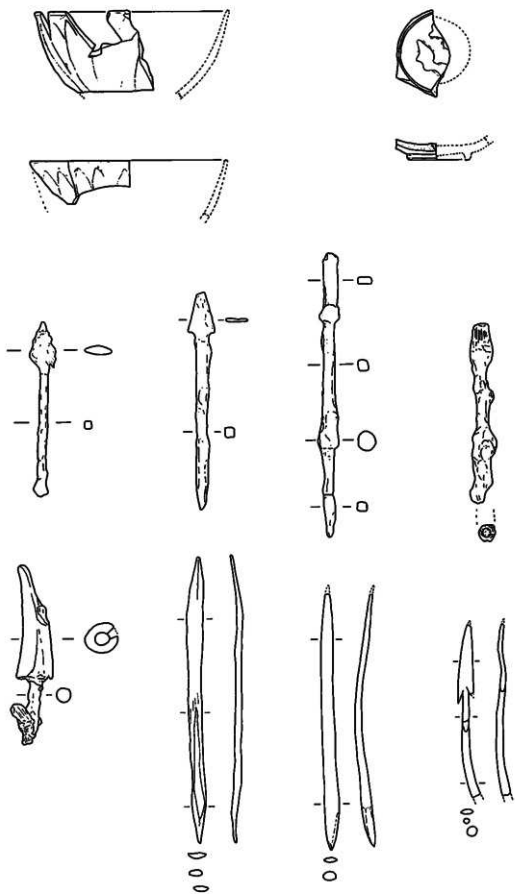
第8圖 P-38 出土遺物



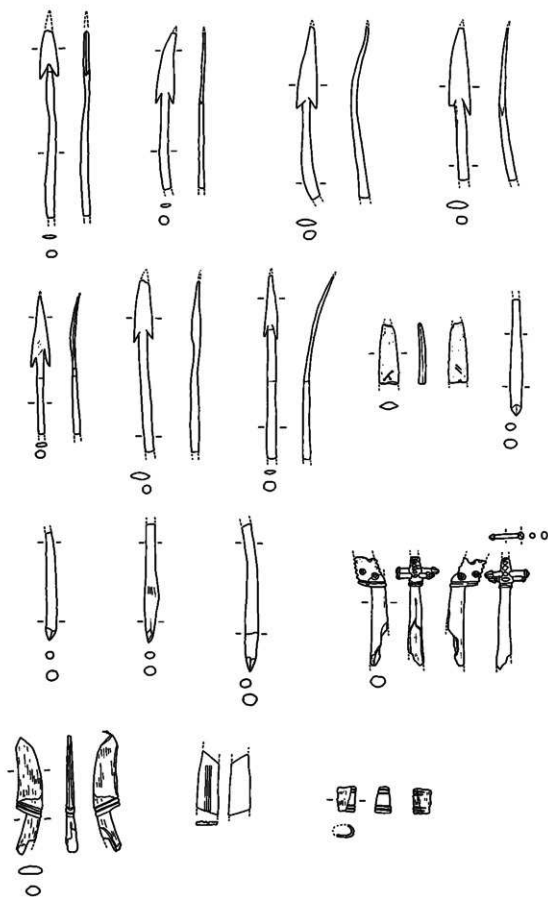
第9図 P-41 検出状況



第10图 P-41 出土遺物



第11圖 P-41 庄土遺物 (骨磁器・骨角器)



第12圖 P-41 出土遺物(骨角器)

#### 4. 服部地点の遺物と遺構

##### (1) 遺物の概要と時期

縄文時代晩期～統縄文時代の石器・土器、中・近世の刀・刀子・骨角器等  
13,166点が出土している。

##### (2) 遺構の概要と時期

住居址 1基 (時期不明)  
墓塚 6基 (縄文晩期 2基、中・近世  
3基、時期不明 1基)  
土壌13基 (時期不明)  
石組炉 1基 (近・現代)  
貝塚 1基 (近代)  
焼土 2基 (時期不明)  
剥片集中 2ヶ所 (時期不明)

縄文時代晩期に属する墓塚が2基検出しているがいずれも晩期中葉のものと思われる。

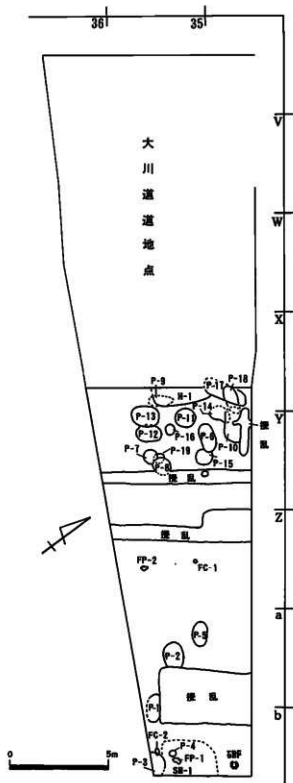
土壌が13基検出されているが伴出遺物は少なく、いずれの土壌も時期を決定する遺物は出土しなかった。

##### P-9 (第14・16・17図)

X-35グリッドに位置する。Ⅱ層を掘り込む長楕円形を呈すると思われる墓塚で木棺状の炭化材と焼けた人骨が検出された。炭化材内部には焼土が形成されており、刀、骨鏃、中柄等がみられた。骨鏃や中柄の形態から中世から近世初頭の時期にあたる火葬墓と思われる。明確な人骨の部位から頭位は南西向きと推察される。

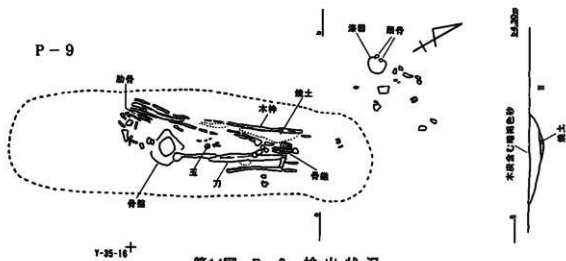
##### P-17 (第15・18図)

X-34グリッドに位置する。明確な墓塚のプランは確認できなかった。墓塚内には遺体と思われる暗褐色砂の広がりがみられ、刀、刀子が検出された。

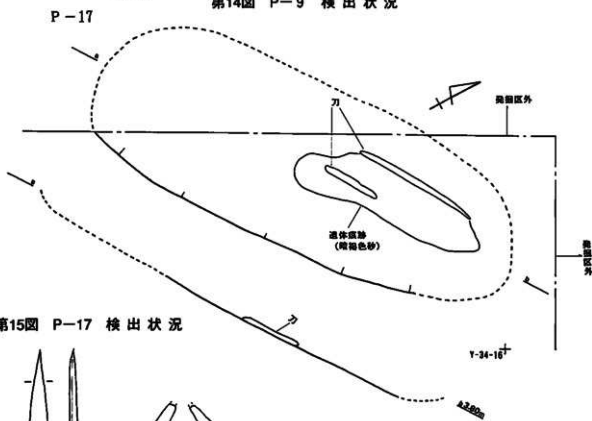


第13図 大川遺跡服部地点 遺構配置図

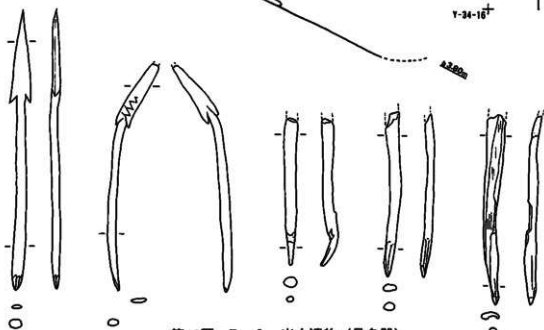




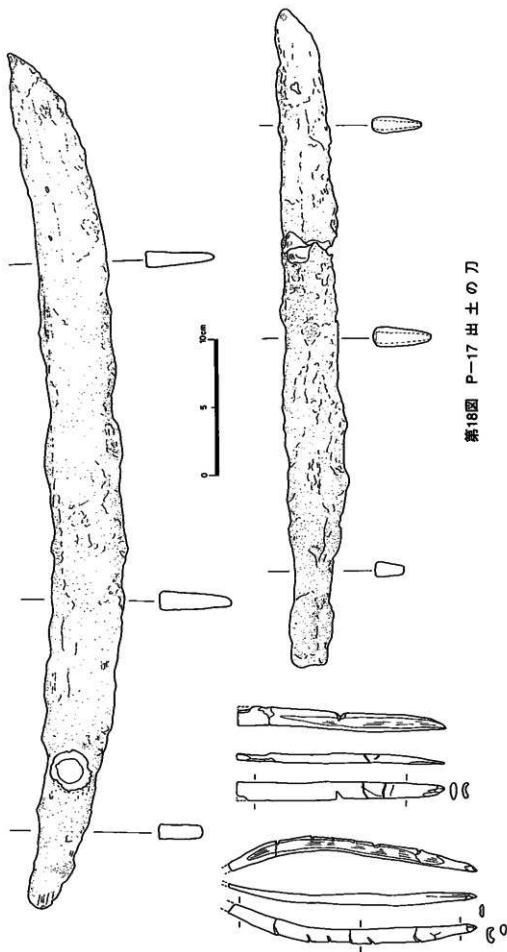
第14图 P-9 検出状況



第15图 P-17 検出状況



第16图 P-9 出土遺物 (骨角器)



第18圖 P-17 出土の刀

第17圖 P-9 出土遺物 (骨角器)

## 5. 道道地点の遺物と遺構

### (1) 遺物の概要と時期

縄文時代晩期中葉～続縄文前半の石器・土器、中世の漆器・和鏡等39,157点が出土した。

### (2) 遺構の概要と時期

住居址2基（擦縄文時代1基、時期不明1基）

墓墳43基（縄文時代晩期～続縄文時代41基、中世1基、時期不明1基）

土壌15基（縄文時代晩期3基、時期不明12基）

壕状遺構3基（時期不明）1991年度発掘で検出されたMO-10と明確に接続すると思われるものをMO-10と呼称した。

柱穴群1ヶ所（時期不明）

焼土6基（縄文時代晩期5基、時期不明1基）

縄文時代晩期中葉から後葉にかけての墓墳を主体とする地点であり、擾乱のため中・近世の遺構は比較的少なかった。

当地点の縄文時代晩期後葉の墓墳の副葬遺物は基本的に琥珀製装身具、石鏃、土器であり、それらの組み合わせに数量も含めたいくつかのバリエーションがみられた。

発掘区南側には砂質凝灰岩粗粒が広域に貼られておりその上面に晩期中葉の土器の集中が砂丘の傾斜にそってなされている。

#### P-6（第20・21図）

W-35グリッドに位置する長楕円形を呈する墓墳である。遺構長軸より軽石片とともに黒曜石製の石鏃の集中が確認されている。遺体の頭位は不明である。

遺構北側に黒曜石の原石を埋納した土壌が検出されたがP-6に附随するものと思われる。

#### P-10（第22・23図）

U-32グリッドに位置する楕円形を呈する墓墳であり、隣接するP-11を切って構築されている。墳底部にベンガラが散布されているが遺体の痕跡は確認されなかった。遺物が遺構南側に集中しており、完形土器、直径5mm前後の琥珀製平玉、フレイクなどが出土している。

#### P-11（第22・24図）

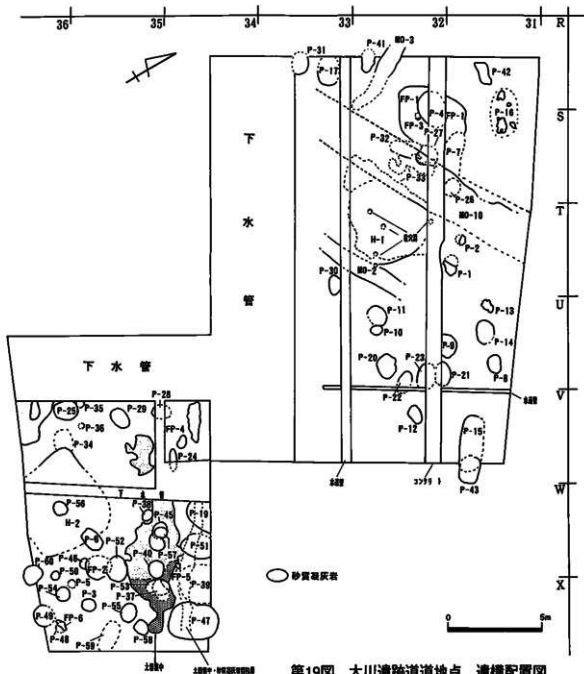
U-32グリッドに位置する楕円形を呈する墓墳である。墳底部にベンガラが散布されているが遺体の痕跡は確認されなかった。墳底より流紋岩？製垂飾、琥珀製平玉が連なって出土している。これらは首飾りであったと思われる、頭位は西向きであったと推測される。

P-17 (第25・26図)

R-35グリッドに位置する。円形を呈すると思われる墓墳である。中央に遺体が見られるが部位は不明であった。墓墳内の副葬品は壁際に集中しており、石鏃、石斧、ナイフなどとともに多量のフレイクが検出された。北側の縁辺には恵山期の完形土器が2点出土している。第26図1の土器には表面に朱が塗布されており、内部には朱がつめられている。

P-47 (第27図)

R-31グリッドに位置する楕円形を呈する墓墳である。墓墳長軸の両端のからは漆器と和鏡が出土している。和鏡は全体が木質のもので覆われており、箱状のものに収められて副葬されたと思われる。和鏡から中世に属する墓墳と思われる。歯片の位置から頭位は北東と思われる。

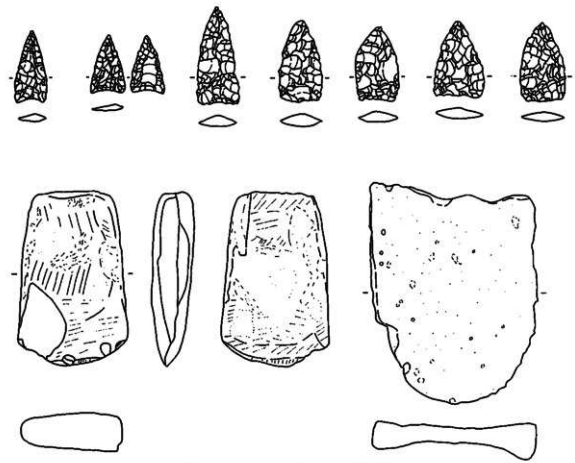


W-36-03+

P-6



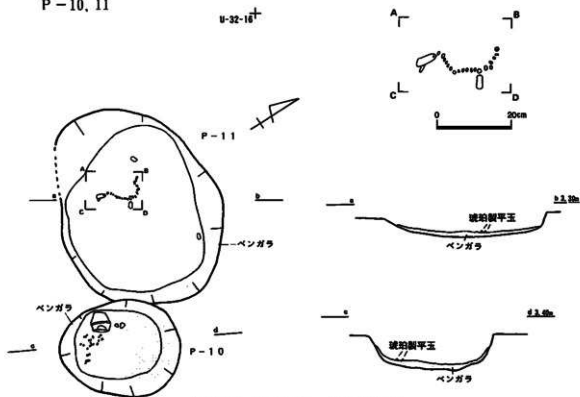
第20図 P-6 検出状況



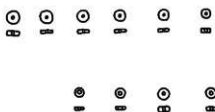
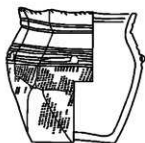
第21図 P-6 出土の遺物

P-10, 11

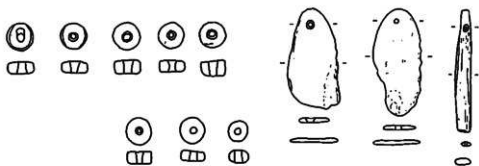
U-32-16+



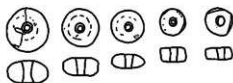
第22図 P-10,11 検出状況

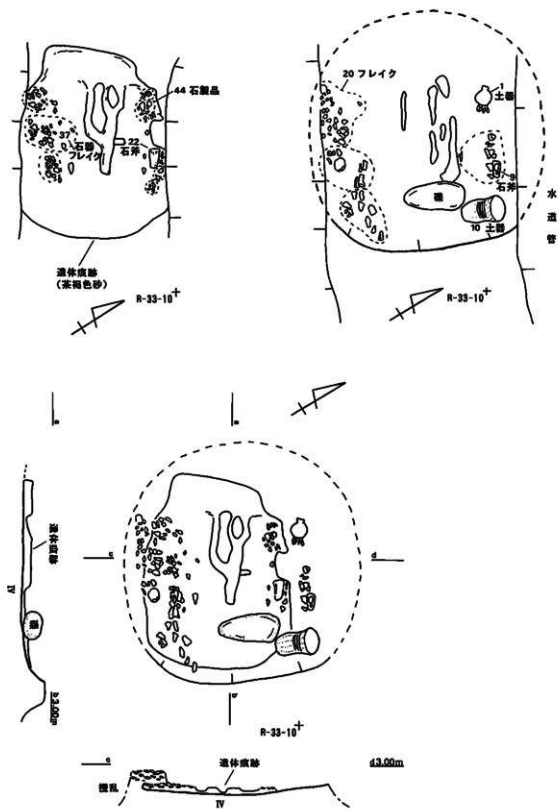


第23図 P-10 出土遺物



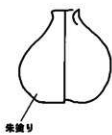
第24図 P-11 出土遺物



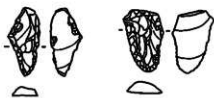
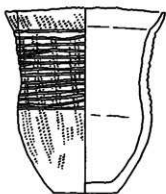


第25図 P-17 検出状況

1



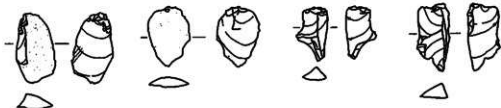
10



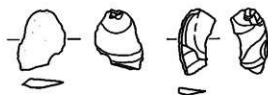
37



20



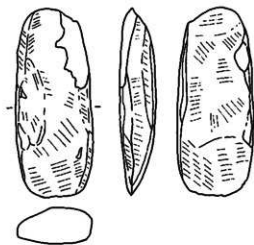
20



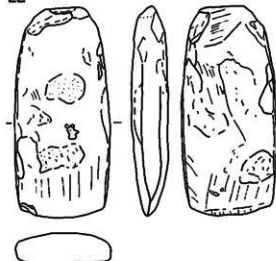
44



9

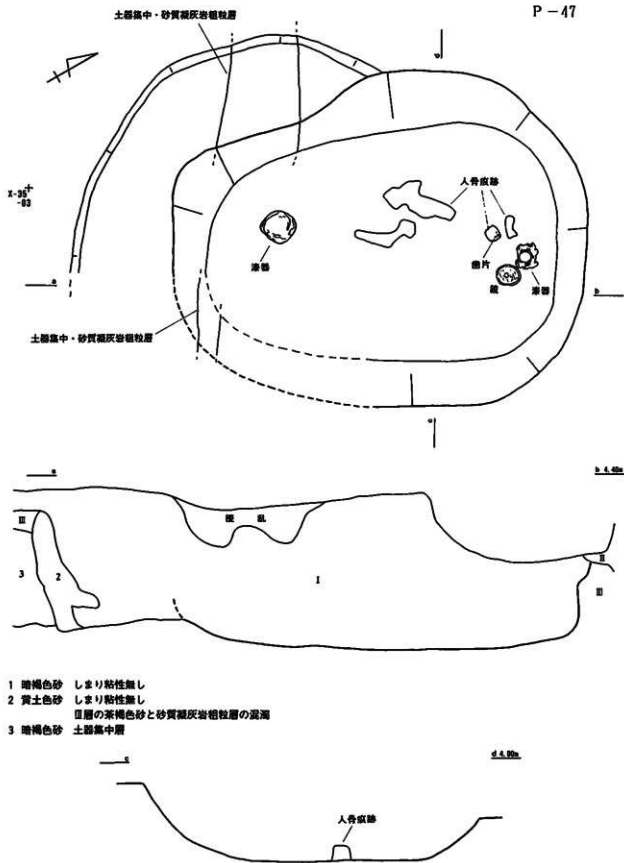


22



第26圖 P-17 出土遺物





第27図 P-47 検出状況

## 小括

1999年度の発掘では縄文時代晩期～中・近世、近代の各期にわたる遺構が検出されているが、その多くが墓墳であり、各期にわたって墓域として利用されたことがうかがえる。

大川砂丘は余市川の運搬する土砂によって余市湾方面に序々に形成されていったが、大川遺跡では余市川上流から河口にむかって次第に新しい時期の遺構が多くなる傾向が過去の調査で確認されていた。1999年度の発掘においても同様の状況にあり、上流側にあたる道道地点・服部地点では縄文時代晩期の墓墳が主体であり、河口側にあたる迂回路地点では続縄文時代前半期の墓墳が多くみられた。墓墳の数に対して住居址が少ないことも同様であった。

道道地点の晩期後葉の墓墳から琥珀製装身具が副葬品として検出されているが、これは1998年度発掘調査を行った大川遺跡での縄文時代晩期中葉の墓墳の副葬装身具が翡翠、蛇紋岩製であることと相違しており縄文時代晩期後葉、あるいは続縄文時代への移行の現われかと思われる。

中世にあたると思われる墓墳が4基検出されている。これらには和鏡と漆器のいずれか、あるいは両者が副葬されており、この地域の中世墓墳の特徴を示している可能性があると思われる。特に迂回路地点の墓墳P-42の墳底からは刀子また漆器、和鏡、櫛、紐状の繊維、箱状木製品が重なった状態で検出されている（写真5、写真17）。副葬遺物に一定の共通性はみられるが墓墳の形態や埋葬方法にはそれぞれ差異がみられる。

近世アイヌ墓は攪乱によって破壊されたと思われる道道地点を除く2地点で検出されており煙管等の副葬遺物から17世紀後半から18世紀にかけてのものが主体となると思われる。頭位は東から北東方向であり、対岸の入舟遺跡の近世アイヌ墓の多くが北東から南東向き、特に南東が多いことと相違がみられる。

漠然とした記述となったが具体的な遺構の内容、墓墳の副葬遺物の組み合わせや統計については本報告に記載したい。

引用・参考文献（年代順）

- 名取武光他 1961年 『大川遺跡』余市町教育委員会
- 久保武夫 1966年 「余市海岸の砂丘」『余市高校研究紀要』
- 竹田輝雄 1969年 「北海道」『新版日本の考古学』Ⅱ
- 野村 崇 1976年 『札幌～上磯郡木古内町における縄文時代晩期土壌墓の調査』  
北海道開拓記念館
- 石橋孝夫他 1979年 『SHIBISHIUSUⅡ』石狩町教育委員会
- 野村 崇 1981年 「北海道南部・中部の土器」『縄文文化の研究』4 縄文土器Ⅱ
- 尻八館調査委員会編 1981年 『尻八館調査報告書』
- 種市幸生編 1982年 『ママチ遺跡』北海道埋蔵文化財センター
- 加藤邦雄 1982年 「道南・道央の墳墓」『縄文文化の研究』6 続縄文・南島文化
- 石橋孝夫編 1984年 『紅葉山33号遺跡』石狩町教育委員会
- 加藤邦雄 1984年 「北海道の中世墓について」『北海道の研究』2
- 平川善祥 1984年 「近世アイヌ墳墓の考古学的研究」『北海道の研究』2
- 古泉 弘 1985年 「江戸の街の出土遺物」『季刊考古学』第13号
- 宮 宏明編 1990年 『1990年度大川遺跡発掘調査概報』余市町教育委員会
- 岡田淳子編 1991年 『1991年度大川遺跡発掘調査概報』余市町教育委員会
- 岡田淳子編 1992年 『1992年度大川遺跡発掘調査概報』余市町教育委員会
- 竹田輝雄編 1993年 『伊達市有珠オヤコツ・ボンマ遺跡』伊達市教育委員会
- 岡田淳子編 1994年 『1994年度大川遺跡発掘調査概報』余市町教育委員会
- 千代 肇 1995年 「北海道と本州、北日本の現状」『北海道考古学』第31輯
- 小柳リラコ 1998年 「近世墓ーカプト・ソーランラインの巻ー」『時の絆 道を辿る』  
石附喜三男先生を偲ぶ本刊行委員会
- 乾 芳宏編 1999年 『1999年度入舟・大川遺跡発掘調査概報』余市町教育委員会
- 青野友哉 1999年 「碧玉製管玉と琥珀製玉類からみた続縄文の特質」『北海道考古学』  
第35輯
- 岡田淳子編 1999年 『入舟遺跡における考古学的調査』余市町教育委員会
- 岡田淳子編 2000年 『大川遺跡における考古学的調査』Ⅰ 余市町教育委員会



写真1. 迂回路地点 P-9  
検出状況と焼骨群





鏡 C



鏡 B



左、鏡 A 右、鏡 B



裝飾具 (貝製品)

写真 2 迂回路地点 P-9 出土遺物



写真 3 迂回路地点 P-38 検出状況



検出状況  
(左、下)



坑底陳列状況



写真4 迂回路地点 P-41 検出状況と遺物



青磁碗



竹籤



P-2 出土漆器 1



P-2 出土漆器 2



P-6 出土漆器



P-10 出土漆器



P-42 出土鏡・漆器



P-12 出土漆器



P-5 出土ガラス玉

写真5 迂回路地点 遺構出土遺物 1



P-32 出土土器



P-22 出土琥珀製管玉



SM-3 出土文様付骨角器



P-18 出土土器

写真6 迂回路地点  
遺構出土遺物 2



写真7 迂回路地点 包含層出土遺物





P-9 検出状況



P-9 焼骨検出状況



P-9 骨 鎖 群



P-17 刀

写真8 服部地点  
検出遺構と出土遺物



写真9 服部地点 包含層出土土器



検出状況



写真10 道道地点 P-11  
検出状況と出土遺物

琥珀製平玉と石製垂飾



写真11 道道地点 P-10 検出状況



検出状況



石 鐵 集 中

写真12 道道地点 P-6  
検出状況と出土遺物



検出状況



土 器 10



石 鐵 ・ 石 斧



石 鐵

写真13 道道地点 P-17 検出状況と出土遺物



写真14 道道地点 P-47  
検出状況と出土遺物

検出状況（鏡取り上げ後）



漆器



漆器と鏡



包含層出土勾玉



P-9 出土土器



P-17 出土土器 1



P-24 出土土器

写真15 道道地点 出土遺物



P-45 出土漆器と琥珀製玉





P-1 出土琥珀製玉



P-49 出土琥珀製玉

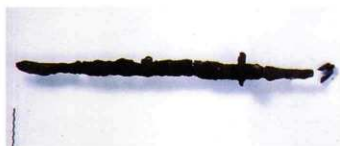


P-38 出土琥珀製玉と石鏃



P-41 出土歯片と磔玉

写真16 道道地点 遺構出土遺物



迂回路地点 P-9 刀



迂回路地点 P-41 刀



服部地点 P-17 刀

写真17 遺構出土 中・近世遺物



迂回路地点 P-9 鏡 A



鏡 B



鏡 C

迂回路地点 P-42 出土遺物



鏡



箱状木製品・櫛・紐状繊維



漆器(スタンプ紋)

# 大川遺跡発掘調査概報

大川橋線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要

発行 平成12年3月25日

編集・発行 余市町教育委員会

〒046-0015 北海道余市郡余市町朝日町26番地

印刷 株式会社 おおはし

〒046-0004 北海道余市郡余市町大川町14丁目14番地